

接触式ソフトメンブレン超音波生体顕微鏡の 獣医臨床応用に関する基礎的検討

富張瑞樹¹⁾ 渡邊 優¹⁾ 萩 清美¹⁾ 田中利幸¹⁾
小郷 実²⁾ 長谷川貴史^{1)†}

- 1) 大阪公立大学 獣医学部 獣医学専攻 (〒598-8531 泉佐野市りんくう往来北1-58)
2) (株)トーマコーポレーション (〒451-0051 名古屋市西区則武新町二丁目11番33号)

(2025年10月2日受付・2026年3月12日受理・2026年8月15日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/8/79_e137/_article/-char/ja

要 約

接触式ソフトメンブレン超音波生体顕微鏡 (SM-UBM) を用いて犬の隅角検査に関する基礎的検討を行った。ソフトメンブレン (SM) を機器説明書に従って装着すると鮮明な隅角画像は得られなかったが、その装着位置を嵩上げすると、鮮明な同画像が得られた。そこで、解凍豚眼を用いて SM 装着位置を 1-3 mm 嵩上げして毛様体溝様構造部の開口部距離と面積を計測し、検者内と検者間の信頼性を評価した。その結果、最適 SM 装着位置はそれを 3 mm 嵩上げすることであった。この条件で犬隅角を撮像したところ、SM の 3 mm 装着位置は従来型 UBM と同等以上の隅角画像が得られ、獣医領域で SM-UBM を使用する場合には SM の 3 mm 装着位置が最適条件であることが示された。本条件を用いることで、犬隅角を安定して SM-UBM で評価できるものと考えられた。

——キーワード：犬隅角，解凍豚眼，嵩上げ装着，ソフトメンブレン，超音波生体顕微鏡。

----- 日獣会誌 79, e137～e144 (2026)